

立命館法学 第365号—370号 総目次

		号	頁
論 説			
内部統制制度の自治体への導入について	駒 林 良 則	365	1
憲法94条と地方自治法15条規則 ——規則制定権と罰則制定権——	須 藤 陽 子	365	36
ドイツの民主政における阻止条項の現在(2)(3・完) ——自治体選挙と欧州選挙の阻止条項への違憲判決を契機として——	植 松 健 一	365 366	65 36
死刑と生命権(再論) ——死刑憲法13条違憲論は死刑廃止に役立つか——	生 田 勝 義	365	110
間接正犯の淵源に関する一考察(3・完) ——19世紀のドイツにおける学説と立法を中心に——	市 川 啓	365	142
正当防衛の正当化根拠について(1)(2)(3) ——「法は不法に譲歩する必要はない」という命題の再検討を中心に——	山 本 和 輝	365 367 368	198 91 129
建設アスベスト訴訟における建材メーカーの責任(再論) ——大阪判決・京都判決の検討を中心に——	吉 村 良 一	365	260
白紙書面の濫用補充と交付者の法的責任(1)(2・完) ——BGB 172条類推適用法理の意義・可能性と限界を中心に——	白 井 豊	365 366	293 124
台湾の信託業とその規制法の制定にかかる史的考察	李 娜	365	330
「人殺出入」(一)(二・完) ——江戸幕府評定所における刑事事件の審理とその特徴——	大 平 祐 一	365 366	1 1
最高裁と「司法のステイツマンシップ」論 ——立法事実変遷論と司法的救済を手がかりに——	坂 田 隆 介	366	1
間接正犯論の歴史的考察(1)(2)(3) ——目的なき・身分なき故意ある道具を素材に——	市 川 啓	366 367 368	85 51 72
損益相殺における「利益」概念の再検討 ——控除否定根拠としての「不利益性」可視化論——	松 本 克 美	366	159

参議院と議院内閣制	大西祥世	367	1
デジタル遺品の法的処理に関する一考察(1)(2・完) ——ドイツ初の LG Berlin 2015年12月17日判決を中心 に——	白井豊	367 368	145 203
不動産と製造物責任	松本克美	367	170
いわゆる株主の固有権と株主平等原則	村田敏一	367	188
「強い参議院」と緊急集会	大西祥世	368	1
内部開発の地区詳細計画と瑕疵の効果 ——計画維持規定の欧州法適合性——	湊二郎	368	35
現代日本の居住権法の一断面(1) ——敷引特約・礼金特約・更新料特約など——	生熊長幸	368	166
ドイツ法における適時開示義務違反の責任 ——損害と因果関係に関して——	島田志帆	368	237
最近の詐欺罪判例と罪刑法定主義 ——法的関係の相対性からする検証——	生田勝義	369-370	1
違憲審査の方法と法令違憲 ——違憲審査と違憲判断の方法について(一)——	市川正人	369-370	30
ニュージーランドにおける養子縁組法と生殖補助医療法 ——日本への示唆として——	梅澤彩	369-370	53
民事裁判における「手続的正義」・小考 ——「弁論再開判決」(最一小判昭和56年9月24日)を 機縁として——	川嶋四郎	369-370	83
倒産法の基礎理論	河野憲一郎	369-370	113
個人の「主観」と不法行為法 ——葬儀場の営業をめぐる最高裁判決を素材として——	木村和成	369-370	142
信用リスクの移転と破産法 ——CDS、指名債権の譲受人による相殺、双方未履行契 約としてのリスク引受契約——	栗田隆	369-370	171
子の利益に即した手続代理人の活動と家事紛争解決	佐々木健	369-370	211
破産管財人の報酬に関する視点と論点	佐藤鉄男	369-370	237
取締役の利益相反取引と権限濫用行為 ——東京高裁平成26年5月22日判決を契機に——	品谷篤哉	369-370	261
公益法人(一般法人)の利益相反取引規制に違反し た取引の効力について	清水俊順	369-370	287

中国における遺留分制度の構築にあたって ——家族主義的理念と個人主義的理念に揺れる制度の行 方——	朱 嘩	369-370	315
冷凍胚の法的地位および処置規則について ——無錫冷凍胚案から——	徐 文 海	369-370	341
面会交流の法的性質 ——英国における司法手続きの分析から——	高 田 恭 子	369-370	364
資本主義と金銭債権 ——W・シュトレーク『時間かせぎの資本主義』によせ て——	高 橋 眞	369-370	394
婚姻前の氏を通称として使用する権利の現代的意味 ——東京地裁判決平成28年10月11日事件を素材として——	立 石 直 子	369-370	421
消費者の判断力不足への法的対応 ——改正消費者契約法における過量契約規定を契機とし て——	谷 本 圭 子	369-370	439
複数の株主による責任追及訴訟における必要的共同 訴訟の根拠 ——既判力の人的拡張を手がかりに——	鶴 田 滋	369-370	476
破産手続終結による破産者の財産管理処分権の回復 について ——免責不許可決定が財産管理処分権回復に及ぼす影 響——	中 島 弘 雅	369-370	501
「否決の決議」の取消しを請求する訴えに関する一 考察	中 村 康 江	369-370	523
起訴状謄本送達制度の成立経過 ——被告事件について弾劾告知を受ける権利——	久 岡 康 成	369-370	553
医療過誤における請求権競合 ——順位付き請求権競合の提言——	平 野 哲 郎	369-370	580
過去の克服とフリッツ・パウアー	本 田 稔	369-370	607
訴訟承継について ——加波教授の論考に即して——	本 間 靖 規	369-370	629
ヨーロッパにおける日常家事債務の連帯責任	松 久 和 彦	369-370	651
規範目的と過失犯 ——先行車との車間距離保持義務と異なった車線での追 突事故——	松 宮 孝 明	369-370	678
相続放棄者の相続財産管理義務と消滅時効	松 本 克 美	369-370	703
2016年参議院選挙と改憲 ——保守、リベラル、右派ポピュリズム——	村 上 弘	369-370	720

被保険者の死亡による人身傷害補償保険金請求権の法的性質 ——相続人による承継取得か原始取得か——	村 田 敏 一	369-370	759
刑事再審事件における手続法上の諸問題 ——東住吉えん罪事件の経験から——	森 下 弘	369-370	788
離婚時の財産分与と課税問題	安 井 栄 二	369-370	814
取締役の第三者責任に関する会社の補償の余地 ——委任契約における受任者の加害行為による第三者損害の処理を参考に——	山 田 泰 弘	369-370	838
監督義務者責任（民法714条）の再検討 ——2つの最高裁判決を手がかりに——	吉 村 良 一	369-370	867
借家契約における賃貸人の自力救済行為と不法行為責任	和 田 真 一	369-370	903

特別寄稿

戦後70周年記念特別講演会

I. はじめに	出 口 雅 久	365	355
II. 現代韓国社会における民事訴訟法の役割	金 滉 植	365	357

判例研究

刑事判例研究 15

第一行為により侵害者の攻撃能力が失われたことを認めつつ、第二行為を含めた行為全体について正当防衛を認めた事例（東京高裁平成27年7月15日判決（LEX/DB 25540966））	刑事判例研究会 坂 下 陽 輔	365	365
---	--------------------	-----	-----

刑事判例研究 16

コンピュータグラフィックス（CG）で作成した画像に係る記録媒体が「児童ポルノ」に該当するとされた事例（東京地裁平成28年3月15日判決2016WLJPCA03156003）	刑事判例研究会 上 田 正 基	367	208
--	--------------------	-----	-----

金融商品取引法166条1項1号における「その他の従業者」の意味（最二決平成27年4月8日刑集69巻3号523頁）	品 谷 篤 哉	367	229
--	---------	-----	-----

刑事判例研究 17			
海外に設置されたサーバ上の配信サイトにわいせつ動画等のデータをアップロードし、日本人顧客にダウンロードさせた行為と刑法175条1項後段にいうわいせつな電磁的記録の頒布（最決平成26年11月25日 平成25年（あ）第510号 刑集68卷9号1053頁）	刑事判例研究会 山田 慧	368	268
研究ノート			
大審院（民事）判決の基礎的研究・10 ——判決原本の分析と検討（大正11年1・2月分）——	木村和成	367	252
紹介			
クラウス・ティーデマン 記念論文集の紹介（5・完）	刑法読書会 松宮孝明（共編） 経済刑法研究会 浅田和茂	366	182
A・ユーザー＝W・ペロン編 『ヨーロッパにおける刑事責任および刑事制裁の構造比較——比較刑法理論への寄与』（1）	刑法読書会 浅田和茂 松宮孝明（共編）	368	298
資料			
戦後70周年記念国際学術シンポジウム 「欧州連合司法裁判所の役割」			
一 はじめに	出口雅久	366	205
二 ロルフ・シュトゥルナー 国内法に対する EU 司法裁判所の裁判の影響力	川中啓由（訳）	366	209
第14回天野和夫賞		368	339
学位論文審査要旨		368	321
法学会記事		365	386
加波眞一教授 オーラルヒストリー	聞き手：和田吉弘	369-370	932
生熊長幸教授 退職記念講義 民法分野における法の解釈ということ		369-370	954
二宮周平教授 退職記念講義 家族の多様性と個人の尊重～研究の過去・現在・未来		369-370	987

生熊長幸教授	略歴・主な業績	369-370	1011
加波眞一教授	略歴・主な業績	369-370	1042
二宮周平教授	略歴・主な業績	369-370	1053